

「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現に向けて

1. はじめに

本州最西端に位置する山口県は、三方を瀬戸内海や日本海に囲まれ、気候は温暖であり、台風や地震が比較的少なく、全体として住み良い県とされています。

一方で、人口減少や全国より早く進む高齢化など多くの課題を抱える山口県では、昨年12月に策定した新たな総合計画である「やまぐち未来維新プラン」に基づき、県民誰もが、山口ならではの豊かさと幸福を感じながら、未来に希望を持って暮らせる山口県の実現に取り組んでいます。

2. 建設DXの取組

本県においても、建設産業における就業者数の減少や高齢化の進行、公共土木施設の老朽化の進行といった課題に直面しています。

このため、「やまぐち未来維新プラン」の重点施策の中で、「建設DXの推進」を大きな柱として掲げ、デジタル技術を活用した建設現場の生産性向上による建設産業の働き方改革の推進や、インフラメンテナンスの高度化・効率化の推進により、異状を早期に発見し速やかに対応する「日本一の安心インフラやまぐち」の実現に向けた取組を進めているところです。

具体的には、建設現場の生産性向上については、ICT活用工事の実施やICT活用に係る技術者を養成するセミナーの開催、BIM/CIMの活用促進等に取り組んでいます。

また、インフラメンテナンスの高度化・効率化については、橋梁のAIによる点検・診断システ

ムや河川のドローン等による監視手法などの構築を進めており、今後は、デジタル技術の活用をトンネルやダムなどの施設にも拡大するとともに、公共土木施設等に係る様々なデータのオープン化にも取り組むこととしています。



ICTセミナー開催の様子



ドローンを活用した橋梁点検

こうした取組を加速化するため、昨年4月に土木建築部技術管理課に新たに「建設DX推進班」を設置し、8月には産学官で連携強化を図る「山口県建設DX推進連絡協議会」を設立したところであり、現在、産学官が協働して、「山口県建設DX推進計画」の策定を進めています。



山口県知事 村岡 嗣政

本県の基幹産業であり、地域の守り手である建設産業が、将来にわたって、その社会的役割を担っていけるよう、また、「日本一の安心インフラやまぐち」の実現により、県民の安心・安全な暮らしが確保できるよう、建設DXを積極的に推進していく考えです。

3. 災害復旧事例(島田川平成30年7月豪雨)

次に、本年2月に本県で開催される一般社団法人全日本建設技術講習会のテーマである「災害復旧」について、事例を紹介します。

本県においても、過去に何度も大きな災害に見舞われており、近年では、中国地方を中心に甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨」により、山口県岩国市、周南市、光市を貫流する二級河川島田川流域では、浸水面積410ha、床上浸水219戸、床下浸水270戸の甚大な浸水被害が発生しました。

この浸水被害を受けて、再度災害を防止するため、島田川水系の河川整備計画を見直し、災害対策等緊急事業推進費を活用して、河川改修を緊急的かつ集中的に実施したところです。

当該改修の概要は、浸水被害のあった12km区間のうち、下流4kmについて河道掘削と護岸工を施工し、流下能力を向上させるもので、これにより、同規模の洪水に対して、再度の浸水被害を防止し、住民の安心・安全の確保を図ることができました。

今後も大規模な自然災害の発生に備え、災害に強い県づくりを進めるため、自主防災組織の活性化をはじめとする自助・共助の取組を促進すると

ともに、河川や土砂災害防止施設等の整備、デジタル技術を活用した社会インフラの管理を推進するなど、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を進めていきます。



島田川平成30年7月豪雨災害対応 河川改修後

4. おわりに

県政の最重要課題である人口減少の克服は道半ばですが、本県の魅力を活かし新たな未来に向けた県づくりの取組を力強く進め、「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現を目指します。

本年2月の建設技術講習会の現場研修では、先述した「島田川平成30年7月豪雨災害対応」に加え、産業力の強化や交流の拡大に向けた基盤整備が進められている「徳山下松港国際物流ターミナル整備事業」や「一般国道2号富海拡幅」などもご覧いただく予定です。来県された際には、自然豊かな山口の地で、魅力あふれる食や文化に触れ、思う存分堪能してください。皆様のお越しをお待ちしております。

おいでませ山口へ！